

中小企業地域資源  
活用促進法に基づく



**ふるさと名物**  
Furusato Meibutsu

わが市町村の  
ふるさと名物は  
**これ!**



ひがしそのぎ

**長崎県東彼杵町**  
が応援するふるさと名物

緑と青と橙。

お茶、海、夕日が彩る

カラフルツーリズム!





ふるさと名物  
Furusato Meibutsu

# 応援宣言

ひがしそのぎ

## 長崎県東彼杵町

地域の  
プロフィール

長崎県

東彼杵町

東彼杵町は昭和34年5月、彼杵（そのぎ）町と千綿（ちわた）村との合併によって誕生。長崎県のほぼ中央部に位置し、人、産物、情報が集まる玄関口として知られています。基幹産業は県内荒茶生産量の約6割を占める「そのぎ茶」をはじめとした農業。温暖な気候と多良山系の山々が美しい自然を育み、いちごやみかん、アスパラ、肉用牛なども生産されています。

四季折々の美しい農村風景が広がる東彼杵町。小高い丘一面に広がる茶畑の柔らかな緑、時間ごとにその表情を変える大村湾の紺碧、山海を暖かなオレンジ色に染め上げる夕日。日々の暮らしの中でふとした安息を感じられるような景観は、訪れた人々に癒しを与えてくれます。四季を通じて素朴な中にもどこか力強く、あるいは優しく、何気ない日常を彩る“四季彩”。東彼杵町は、オンリーワンの景観を活かした癒しのツーリズムで、“一流の田舎”を目指しています。

## 1

## “日本一”のそのぎ茶 でグリーンティーリズム

### ふるさと名物



大村湾を一望する台地に広がる東彼杵町の茶畑。長崎県内の茶園面積の55%、約400haの緑が一面に広がります。約270戸の農家により、県内産茶葉の65%、およそ450トﾝが生産され、全国的な茶葉の産地として評価されています。

その品質も折り紙つき。「消費者が選ぶ日本一おいしいお茶」を競う「日本茶AWARD」では、平成26年にグランプリ、平成28年にも準大賞を獲得しました。

東彼杵町の山間台地に茶畑が広がる中尾郷（中尾地区、太ノ原地区）では、心なごむ美しい景観や地元農家によるおもてなしなどを観光事業に活かそうと、グリーン・ツーリズム事業を展開。茶どころならではの素材をフル活用したツーリズム事業を「グリーンティーリズム」と銘打ち実践しています。平成28年3月からは欧州発日本観光ツアーの体験型プログラムとして組み込まれ、参加客の印象に残った土地として「京都、富士山、東彼杵」と挙げられるほど高い評価を得ています。



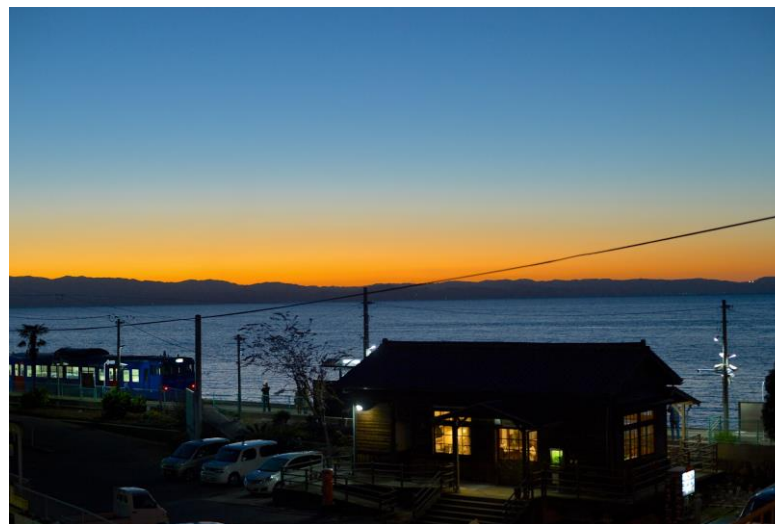
## 2

### ちわた 千綿駅から望む大村湾

#### ふるさと名物

JR千綿駅は昭和3年に開業。平成5年に開業時に近い形で建て替えられ、レトロな趣を今に残しています。夕暮れ時の大村湾を望むノスタルジックな景観は、平成26～27年にかけてJR「青春18きっぷ」のポスターに採用されました。それ以来、全国的にも珍しい海岸線に隣接した駅として、鉄道ファンや写真愛好家を中心に人気急上昇。町有財産であるこの駅舎内で、平成27年2月にはカフェがオープン。現在もオリジナルの日替わりカレー店が営業しており、家族連れや若い女性の姿も増えました。幅広い世代が集まる癒しの駅は多くのメディアに取り上げられ、町の新たな交流拠点に成長しています。

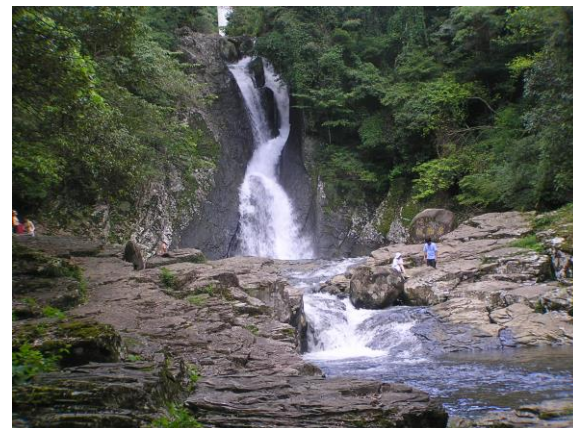
柵など遮るものがなく、ホームから一望できる夕景のパノラマ。波静かな大村湾を鮮やかなオレンジ色に染め上げる時間帯こそ、最高のおもてなしタイムです。



# ふるさと名物に関連する地域資源

## 1 龍頭泉（千綿溪谷）

町内を流れる千綿川に沿って、48の滝と淵が連なる千綿溪谷。江戸時代、大村藩に招かれた儒学者、広瀬淡窓がその美しさに魅了され、溪谷全体を一匹の龍に見立てました。中でも上流の滝を「龍の頭」と称し、「龍頭泉」と命名しました。豊かな自然に抱かれた溪谷は、夏場の清涼感や紅葉に彩られた景色など、四季を通じて様々な姿を見せてくれます。



## 2 くじら

長崎県内で古くから食されてきたくじら。江戸時代、長崎街道と平戸街道が交わる宿場町だった彼杵宿（東彼杵町）の港がくじらの水揚げ地に指定され、ここから九州各地に販売されました。現在も町内には鯨肉の入札会（競り）が県内で唯一残っており、鯨料理を提供する飲食店も多数あります。



そのぎ しょう

## 3 道の駅 彼杵の荘

長崎県の玄関口として、平成14年にオープン。物産館では特産「そのぎ茶」や新鮮な農水産物を多数販売。平成26年にはレストランが開業され、「くじらのだご汁」「そのぎ茶ソフトクリーム」など町ならではの食事を提供しています。長崎市やハウステンボス（佐世保市）への観光ルートの中に位置し、年間100万人以上が訪れるスポット。東彼杵町の歴史と庶民の暮らしが分かる資料を展示する「東彼杵町歴史民俗資料館」や、明治時代のわら葺家屋を移築した古民家などが近接し、歴史と文化の交流地点でもあります。

# 東彼杵町の取り組み

## 1 お茶畑ロードレース

お茶の町ならではの企画として、平成26年度から毎年2月、“西九州一の集団茶園を走ろう！”をテーマに開催。子どもからシルバー世代まで、県内外から1回目は364人、2回目は513人、3回目は643人のランナーが参加。茶畑と大村湾の美観を眺めながら丘陵地を駆け抜け、ゴール地点では地元婦人会や各地区のあたたかいおもてなしを満喫できます。

## 2 町PRキャラクター「茶子ちゃん」<sup>ちゃこ</sup>

東彼杵町の茶畑生まれ。特産品のそのぎ茶と町のPRを頑張っているお茶の妖精です。体はどこ？眉毛は片方だけ？黄色い部分は一体なに？謎多き茶子ちゃんだけど、妖精だから気にしない！

しゃぎきさ

## 3 且座喫茶条例

そのぎ茶を飲む習慣の定着や消費拡大などを目的に平成28年、「且座喫茶条例」を制定しました。「且座喫茶」とは、禅宗の言葉で「ゆっくり座ってお茶をいかがですか」という意味。宴会などの場でそのぎ茶による乾杯を呼び掛けるもので、もてなしの心や郷土愛を育む狙いがあります。

